

平成30年度 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業 放射線教育公開授業研究会

11月13日(火)に、域内の放射線教育実践協力校である南会津町立南郷小学校が公開授業研究会を開催しました。南郷小学校は、「放射線の基礎的な性質等についての理解を深め、自ら考え、判断し、行動できる児童の育成」を研究主題に、「低線量地域における放射線教育の在り方」をサブテーマにした放射線教育に取り組んできました。

公開授業では、6年生の児童が「風評被害を解消するために自分たちができることを県内外の人たちに伝えよう」というめあてのもと、テーマ別グループに分かれこれまでに調べてきたことや自分たちの考えを発表しました。



果物グループの発表

風評被害という課題を理解し、自分たちができることを述べる児童の言葉には力があり、会場に訪れた方々も感心していました。



自分の言葉で伝える6年生児童

公開授業後には、福島大学理工学群共生システム理工学類教授の山口克彦先生による講演会が行われました。実演等を取り入れた講演は、目に見えない放射線を身近に感じさせる内容で、参加した児童や保護者にとっても分かりやすく、充実したものとなりました。



児童を集めての実演



ユーモアを交えながら行われた山口教授の講演

域内における巡回型の 「通級による指導」

南会津町では、今年度より注意欠陥多動性障がい(ADHD)の児童を対象に「通級による指導」が始まりました。域内では、初めての通級指導教室の開設になります。田島第二小学校を本務校に据え、通級担当教員が、6校の兼務校(田島小、田島二小、桧沢小、荒海小、館岩小、伊南小)を巡回し、通級による指導が行っています。現在、15名の児童が「にじいろ学級」(南会津町の通級指導教室の名称)で学んでいます。

通級とは、『小・中学校の通常の学級に在籍している障がいのある児童に対して、各教科等の大部分の授業を通常の学級で行いながら、一部の授業について当該児童の障がいに応じた特別の指導を特別の指導の場(通級指導教室)において行う教育形態』を言います。注意欠陥多動性障がい(ADHD)の他に、言語障がい、自閉症、情緒障がい、弱視、難聴、肢体不自由、学習障がい(LD)、病弱・身体虚弱の児童生徒が、障がい種別で通級による指導の対象になります。

南会津町の通級指導教室を担当しているのは、田島第二小学校の渡部智文先生です。智文先生が対象児童の在籍校を巡回訪問し、それぞれの児童に対して週に1回、「自立活動」の時間を設けて指導に当たっています。



にじいろ学級での指導の様子

年度初めに、本人、保護者、在籍学級担任と綿密な話し合いを通して、自立活動の個別の指導計画が作成され、それを基に、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた指導を実践されています。このような児童一人一人に応じたきめ細かな指導により、個々の学習上又は生活上の課題が少しずつ改善され、より生き生きと学校生活を送ることができるようになってきた児童もいるようです。今後も引き続き、家庭と学校とが連携したきめ細やかな指導を期待します。